

【演題5】

上顎無歯顎患者にボーンアンカー・ブリッジで対応した一症例

北沢 敦 (長岡・ひまわり歯科)



3年ぶりにインプラント治療を相談しにきた上顎無歯顎の患者さんが来院。話を聴くと、孫が生まれ、うつ病も治り、前向きな人生を歩むためには、総義歯ではなく、固定式にしたいとのことでした。

補綴設計は、右側4本、左側4本(臼歯8本インプラント)前歯6本ダミー部は、床タイプのボーンアンカー・ブリッジを検討。

CT撮影後の診断では、上顎臼歯部歯槽骨には、1～3mm程度の厚みしかなく、インプラント治療のためには、骨増大処置が必要であることを説明。患者さんは、大学病院でのサイナスリフトは希望せず、当院にてソケットリフトを選択。そして、左右別々にソケットリフトを施術した後、約6カ月待ち、CT撮影。インプラントによる埋入シミュレーション後、相談。右側からインプラント1次オベ4本埋入。1カ月後、左側4本埋入(8本とも初期固定+)約3カ月待ち、2次オベからプロビジョナルの印象。CAD/CAMでは、この印象一つでプロビジョナルと最終補綴が両方作製可能と伺っていたので、プロビジョナル～ワンピースのチタンフレームまでを作製。

インプラント補綴では、私はセメント固定は行わず、パッシブフィットで装着します。理由として、①様々なリスク回避、②将来的に補綴方針変更が可能になるためです。

しかし、今回CAD/CAMでは最終補綴でもパッシブフィットが得られなかったため、仮着セメントで装着。現在、毎月1度、定期クリーニングを続け、約8カ月経過しても脱落せず、食事、お孫さんとの生活、旅行など楽しんでおられるとのことでした。

患者さんが、インプラント治療を検討して、悩んで、一歩踏み出すのに3年かかりました。私も、再会する3年間に技術も含め、向上した自分がいました。そして、お互いの思いをすり合わせ、導いた計画、治療、経過になりました。NBMとEBMの融合を実践した結果だと考えます。

日歯生涯研修事業の実施について(お知らせ)

平成24・25年度日歯生涯研修事業は平成26年3月31日をもって終了し、同年4月1日からは、引き続き平成26・27年度日歯生涯研修事業がスタートします。なお、同事業の運用については「Eシステム」で実施いたします。

「平成26・27年度日歯生涯研修事業実施要領」および「Eシステム利用マニュアル」は、日本歯科医師会雑誌平成26年3月号、日歯ホームページにも掲載されます。

※ご不明な点がございましたら県歯事務局へお問い合わせください。